

2022年度 東海大学 (2/2)

【 講 評 】

例年通り大問3題で出題された。①はやや易レベルの小問集合で、計算が煩雑な問題もないので、手際よく処理して確実に得点したい。②は1次分数関数を題材とした、微分法(数Ⅲ/数Ⅱ)の問題であった。文字が多く計算がやや煩雑であるが、特別な発想が必要ない問題なので、時間をかけてでも確実に得点したい問題である。③は図形と方程式と微分法の融合問題であった。図の状態さえ把握できれば標準的な問題であるが、傍心の出題頻度は高くないため、苦戦した受験生が多いのではないだろうか。

全体的な難易度は例年通りであるが、③が解きづらく、難しく感じた受験生が多いだろう。全体で60%~65%程度の得点ができればよいだろう。

【 解 答 】

① 小問集合【やや易】

$$\text{ア} : -256, \quad \text{イ} : \frac{7}{6}\pi, \quad \text{ウ} : 2, \quad \text{エ} : 4, \quad \text{オ} : \frac{\pi}{9}, \quad \text{カ} : -39700$$

② 微分法(数Ⅲ/数Ⅱ)【標準】

$$\text{ア} : \frac{ac-b}{(x+c)^2}, \quad \text{イ} : a+c=0, \quad \text{ウ} : -a^2+4a, \quad \text{エ} : a-3, \quad \text{オ} : a^2-3a,$$

$$\text{カ} : \frac{1}{2}a(a-3)^2, \quad \text{キ} : 2$$

③ 図形と方程式(数Ⅱ)/微分法(数Ⅲ)【やや難】

$$\text{ア} : \frac{\sqrt{a^2+1}-1}{a}, \quad \text{イ} : a, \quad \text{ウ} : \sqrt{a^2+1}, \quad \text{エ} : \frac{a^2+1}{4a}, \quad \text{オ} : 1, \quad \text{カ} : \frac{1}{2},$$

$$\text{キ} : \sqrt{\frac{(a^2+1)^3}{(5a^2+1)^2}}, \quad \text{ク} : \frac{\sqrt{35}}{5}, \quad \text{ケ} : \frac{3\sqrt{15}}{25}, \quad \text{コ} : \frac{a}{2}, \quad \text{サ} : \frac{2}{a^2+1}$$

お問い合わせは ☎0120-302-872

<https://keishu-kai.jp/>

【 解 説 】

1

(1) $A = \sqrt{2+\sqrt{2}} + \sqrt{2-\sqrt{2}}i$ とおくと,

$$\begin{aligned} A^2 &= (2+\sqrt{2}) - (2-\sqrt{2}) + 2\sqrt{(2+\sqrt{2})(2-\sqrt{2})}i \\ &= 2\sqrt{2} + 2\sqrt{2}i \\ &= 4\left(\cos\frac{\pi}{4} + i\sin\frac{\pi}{4}\right) \end{aligned}$$

よって, ド・モアブルの定理を用いて,

$$\begin{aligned} (\sqrt{2+\sqrt{2}} + \sqrt{2-\sqrt{2}}i)^8 &= A^8 = (A^2)^4 \\ &= \left\{4\left(\cos\frac{\pi}{4} + i\sin\frac{\pi}{4}\right)\right\}^4 \\ &= 2^8(\cos\pi + i\sin\pi) = -256 \end{aligned}$$

別解 三角関数の値を覚えておけば, 次のように解くこともできる.

$\cos\frac{\pi}{8} = \frac{\sqrt{2+\sqrt{2}}}{2}$, $\sin\frac{\pi}{8} = \frac{\sqrt{2-\sqrt{2}}}{2}$ であるから,

$$\begin{aligned} (\sqrt{2+\sqrt{2}} + \sqrt{2-\sqrt{2}}i)^8 &= 2^8\left(\frac{\sqrt{2+\sqrt{2}}}{2} + \frac{\sqrt{2-\sqrt{2}}}{2}i\right)^8 \\ &= 2^8\left(\cos\frac{\pi}{8} + i\sin\frac{\pi}{8}\right)^8 \\ &= 2^8(\cos\pi + i\sin\pi) = -256 \end{aligned}$$

別解 終わり

(2) 三角関数の合成を用いて,

$$\begin{aligned} y &= \sin(-x+\pi) + \sqrt{3}\sin\left(x+\frac{\pi}{2}\right) \\ &= \sin x + \sqrt{3}\cos x = 2\sin\left(x+\frac{\pi}{3}\right) \end{aligned}$$

$0 \leq x < 2\pi$ のとき $\frac{\pi}{3} \leq x + \frac{\pi}{3} < \frac{7}{3}\pi$

よって, y が最小となるのは, $\sin\left(x+\frac{\pi}{3}\right) = -1$ より,

$$x + \frac{\pi}{3} = \frac{3}{2}\pi \quad \therefore x = \frac{7}{6}\pi$$

(3) 真数条件より, $8x-8 > 0$ かつ $x^2 > 0$ から, $x > 1$ …… ①

このもとで, $\log_2(8x-8) - \log_2 x^2 = 1$ は,

$$\log_2(8x-8) = \log_2 x^2 + \log_2 2$$

$$\log_2(8x-8) = \log_2 2x^2$$

よって $8x-8 = 2x^2$

$$x^2 - 4x + 4 = 0$$

$$(x-2)^2 = 0 \quad \therefore x = 2 \quad (\text{これは ① を満たす.})$$

(4) 三角形の3辺の長さを a, b, c (すべて自然数) とする.

2辺の長さの和が4より, $a+b=4, a \geq b$ …… ① とする.

三角形の成立条件より, $|a-b| < c < a+b$ から, ① を用いると,

$$a-b < c < 4 \quad \dots\dots ②$$

ここで, $(a+b)+(a-b)=2a$ より, $a+b$ と $a-b$ の偶奇は一致し, $a+b=4$ より $a-b$ は偶数である.

このことに注意すると, ①, ② を満たす自然数 a, b, c の組は, 次の表のようになる.

c	$a-b$	(a, b)
3	2 または 0	(3, 1), (2, 2)
2	0	(2, 2)
1	0	(2, 2)

よって, 3辺の長さは,

$$(3, 3, 1), (3, 2, 2), (2, 2, 2), (2, 2, 1)$$

の 4 個である.

(5) $\frac{1}{x^2+9} > 0$ より, $y = \frac{1}{x^2+9}$, x 軸, y 軸, $x = 3\sqrt{3}$ で囲まれた図形の面積 S は,

$$S = \int_0^{3\sqrt{3}} \frac{1}{x^2+9} dx$$

$x = 3 \tan \theta$ ($-\frac{\pi}{2} < \theta < \frac{\pi}{2}$) とおくと, $dx = \frac{3}{\cos^2 \theta} d\theta$ であり,

x	$0 \rightarrow 3\sqrt{3}$
θ	$0 \rightarrow \frac{\pi}{3}$

したがって,

$$S = \int_0^{\frac{\pi}{3}} \frac{1}{9(\tan^2 \theta + 1)} \cdot \frac{3}{\cos^2 \theta} d\theta = \int_0^{\frac{\pi}{3}} \frac{1}{3} d\theta = \frac{\pi}{9}$$

(6) $\{a_n\}$ は初項 5, 交差 -2 の等差数列より,

$$a_n = 5 + (n-1) \cdot (-2) = -2n + 7$$

$$a_{4n} = -8n + 7$$

よって, $\sum_{k=1}^{100} a_{4k}$ は, 初項 a_4 , 末項 a_{400} , 項数 100 の等差数列の和より,

$$\sum_{k=1}^{100} a_{4k} = \frac{100}{2} (a_4 + a_{400}) = \frac{100}{2} (-1 - 793) = -39700$$

2

(1) $f(x) = \frac{ax+b}{x+c}$ のとき,

$$f'(x) = \frac{a(x+c) - (ax+b)}{(x+c)^2} = \frac{ac-b}{(x+c)^2}$$

(2) $y = f(x) = \frac{ax+b}{x+c}$ とおくと, $y = a - \frac{ac-b}{x+c}$

$ac-b \neq 0$ より, $x \neq -c$, $y \neq a$ である.

x と y を入れ替えて,

$$x = a - \frac{ac-b}{y+c} \quad (x \neq a, y \neq -c)$$

よって,

$$x - a = -\frac{ac-b}{y+c}$$

$$y + c = -\frac{ac-b}{x-a}$$

$$\therefore y = f^{-1}(x) = -\frac{ac-b}{x-a} - c$$

$f(x) = f^{-1}(x)$ とすると,

$$a - \frac{ac-b}{x+c} = -\frac{ac-b}{x-c} - c$$

$$a + c = -\frac{(ac-b)(a+c)}{(x-a)(x-c)}$$

$$(a+c)\{(x-a)(x+c) + ac - b\} = 0$$

これが x について恒等的に成り立つのは, $a + c = 0$

(3) $a + c = 0$ のとき, (1) より,

$$f(x) = \frac{ax+b}{x-a}, \quad f'(x) = -\frac{a^2+b}{(x-a)^2}$$

また $f''(x) = \frac{2(a^2+b)}{(x-a)^3}$

$y = f(x)$ と $y = f'(x)$ が $x = t$ において接するとすると,

$$\begin{cases} f(t) = f'(t) \\ f'(t) = f''(t) \end{cases} \quad \therefore \begin{cases} \frac{at+b}{t-a} = -\frac{a^2+b}{(t-a)^2} & \dots\dots ① \\ -\frac{a^2+b}{(t-a)^2} = \frac{2(a^2+b)}{(t-a)^3} & \dots\dots ② \end{cases}$$

② より $-(t-a) = 2 \quad \therefore t = a - 2$

① に代入すると,

$$\frac{a(a-2)+b}{-2} = -\frac{a^2+b}{4}$$

$$2(a^2 - 2a + b) = a^2 + b$$

$$\therefore b = -a^2 + 4a$$

$$(4)(i) \quad (3) \text{ より } f(t) = f'(t) = \frac{at+b}{t-a} = \frac{a(a-2) + (-a^2+4a)}{-2} = -a$$

これより, $y=f(x)$ 上の点 $(t, f(t))$ における接線の方程式は

$$y = f'(t)(x-t) + f(t) \\ = -a(x-(a-2)) - a = -ax + a^2 - 3a$$

よって, $A(a-3, 0)$, $B(0, a^2-3a)$ であるから,

$$\triangle OAB = \frac{1}{2}|a-3||a^2-3a| = \frac{1}{2}a(a-3)^2$$

(ii) $a-3 < 0$, $a^2-3a < 0$ のとき $0 < a < 3$

$S(a) = \frac{1}{2}a(a-3)^2$ ($0 < a < 3$) とおくと,

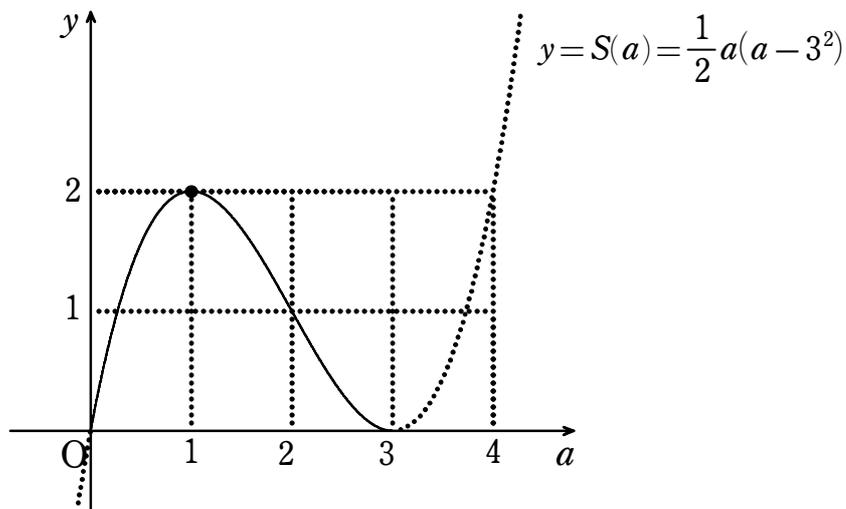
$$S'(a) = \frac{1}{2}(a-3)^2 + a(a-3) = \frac{3}{2}(a-3)(a-1)$$

$S'(a)$ は $a=1$ において正から負に符号変化し, このとき $S(a)$ は極大かつ最大となる.

したがって, $\triangle OAB$ の最大値は,

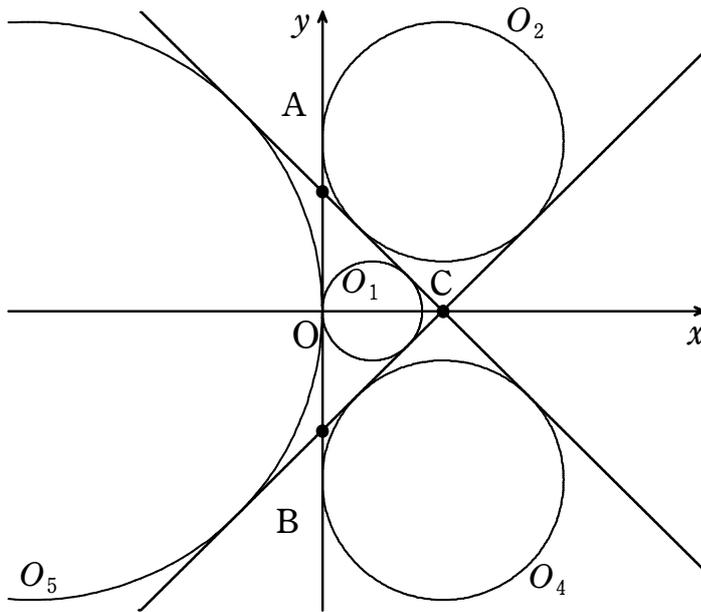
$$S(1) = \frac{1}{2} \cdot 1 \cdot (-2)^2 = 2$$

補足 3次関数の対称性を利用すれば, 微分せずに最大値を把握することができる.



3

集合 S に属する円は、下の図の 4 つの円である。すなわち、 $\triangle ABC$ の内接円と、3 つの傍接円である。



三角形の面積を S ，3 辺の長さを a ， b ， c とする。また，三角形の内接円の半径を r ，頂点 A ， B ， C に対する傍接円の半径を r_A ， r_B ， r_C とすると

$$r = \frac{2S}{a+b+c}, \quad r_A = \frac{2S}{-a+b+c}, \quad r_B = \frac{2S}{a-b+c}, \quad r_C = \frac{2S}{a+b-c}$$

$$\therefore r < r_A, \quad r < r_B, \quad r < r_C$$

よって，三角形の内接円の半径は，どの傍接円の半径よりも小さいから， $\triangle ABC$ の内接円が O_1 であり，中心が第 1 象限にある傍接円が O_2 である。また，中心が第 4 象限にある傍接円を O_4 ，中心が $x < 0$ の範囲にある傍接円を O_5 とする。

(1) O_1 の半径を r_1 とする。 O_1 は $\triangle ABC$ の内接円である。

$AC = BC = \sqrt{a^2 + 1}$ ， $BC = 2$ であるから， $\triangle ABC$ の面積を 2 通りで表すことで

$$\frac{1}{2} \cdot 2 \cdot a = \frac{1}{2} r_1 (\sqrt{a^2 + 1} + \sqrt{a^2 + 1} + 2) \quad \therefore r_1 = \frac{a}{\sqrt{a^2 + 1} + 1} = \frac{\sqrt{a^2 + 1} - 1}{a}$$

(2) O_2 の中心は，頂点 B に対する傍心であるから， $\angle ABC$ の二等分線と，2 直線 AC ， BC のなす角の二等分線の交点である。

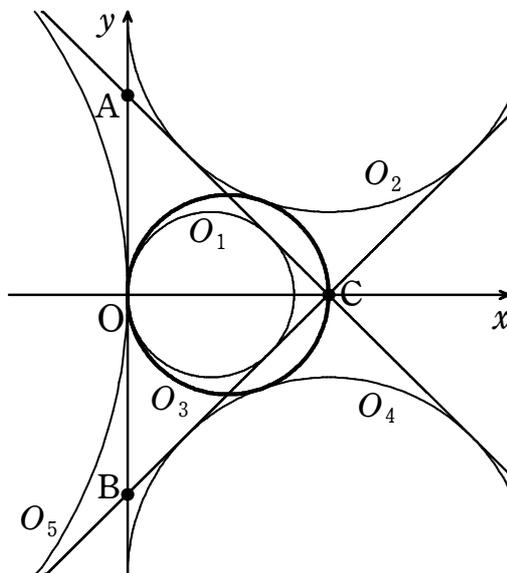
$\angle ABC$ の二等分線は，点 B と円 O_1 の中心を通るから，その方程式は $y = \frac{1}{r_1}x - 1$

また，2 直線 AC ， BC のなす角の二等分線は $y = 0$ または $x = a$ であるが， O_2 の中心は第 1 象限にあることから，中心は $x = a$ 上に存在する。

これらを連立させると $y = \frac{1}{r_1}a - 1 = \frac{a}{\sqrt{a^2 + 1} - 1} \cdot a - 1 = \sqrt{a^2 + 1}$

よって， O_2 の中心の座標は $(a, \sqrt{a^2 + 1})$

(3) O_3 は O_2, O_4 と外接し, O_2 と O_4 は x 軸に関して対称な円であることから, O_3 の中心は x 軸上にある.
 また, O_1 と O_5 は $(0, 0)$ において外接し, O_3 もこの点で O_1 と内接, O_5 と外接するから, $p > 0$ とすると, O_3 の中心は $(p, 0)$, 半径は p とおける.



O_3 が O_2 と外接するとき, 中心間距離と半径の和が等しいから

$$(a-p)^2 + (\sqrt{a^2+1})^2 = (a+p)^2$$

$$a^2+1=4ap \quad \therefore p = \frac{a^2+1}{4a}$$

よって O_3 の半径は $\frac{a^2+1}{4a}$

(4) $a > 0$ であるから, 相加・相乗平均の不等式を用いると

$$\frac{a^2+1}{4a} = \frac{1}{4} \left(a + \frac{1}{a} \right) \geq \frac{1}{4} \cdot 2 \sqrt{a \cdot \frac{1}{a}} = \frac{1}{2}$$

等号が成立するのは $a = \frac{1}{a} \quad \therefore a = 1$ ($\because a > 0$)

よって, O_2 の半径は $a = 1$ で最小値 $\frac{1}{2}$ をとる.

(5) O_3 の半径と O_2 の半径の比は $\frac{a^2+1}{4a} : a = a^2+1 : 4a^2$

O_2 と O_3 は外接するから, その接点は, 2 円の中心を結ぶ線分を $a^2+1 : 4a^2$ の比に内分する点である. よって, 接点の y 座標は

$$\frac{4a^2 \cdot 0 + (a^2+1) \cdot \sqrt{a^2+1}}{a^2+1+4a^2} = \frac{(a^2+1)\sqrt{a^2+1}}{5a^2+1} = \sqrt{\frac{(a^2+1)^3}{(5a^2+1)^2}}$$

$f(a) = \frac{(a^2+1)^3}{(5a^2+1)^2}$ とおくと

$$f'(a) = \frac{6a(a^2+1)^2 \cdot (5a^2+1)^2 - (a^2+1)^3 \cdot 20a(5a^2+1)}{(5a^2+1)^4}$$

$$= \frac{2a(a^2+1)(5a^2-7)}{(5a^2+1)^3}$$

$f'(a) = 0$ のとき $5a^2 - 7 = 0$

$a > 0$ より $a = \sqrt{\frac{7}{5}} = \frac{\sqrt{35}}{5}$

a	0		$\frac{\sqrt{35}}{5}$	
$f'(a)$		-	0	+
$f(a)$		↘		↗

よって $f(a)$ の $a > 0$ における増減は右のようになる.

$a = \frac{\sqrt{35}}{5}$ のとき $f(a)$ は最小となり, このとき y 座標 $\sqrt{f(a)}$ も最小となる.

よって, 最小値は $\sqrt{f\left(\frac{\sqrt{35}}{5}\right)} = \frac{3\sqrt{15}}{25}$

(6) O_3 は中心 $\left(\frac{a^2+1}{4a}, 0\right)$, 半径 $\frac{a^2+1}{4a}$ の円であるから, その方程式は

$$\left(x - \frac{a^2+1}{4a}\right)^2 + y^2 = \left(\frac{a^2+1}{4a}\right)^2$$

また, 直線 BC の方程式は $y = \frac{1}{a}x - 1$

これらを連立させると

$$x^2 - \frac{a^2+1}{2a}x + \frac{1}{a^2}x^2 - \frac{2}{a}x + 1 = 0$$

$$2(a^2+1)x^2 - (a^2+5)x + 2a = 0$$

$$(2x-1)(a^2+1)x - 2 = 0 \quad \therefore x = \frac{a}{2}, \frac{2}{a^2+1}$$

別解1 (2)の O_2 の中心は, 次のように求めることもできる.

(2) 2直線 AC, BC のなす角の二等分線は $y=0$ または $x=a$ であり, O_2 の中心が第一象限にあることから, 直線 $x=a$ 上に存在する. よって, 中心は (a, b) ($b>0$) とおける.

O_2 は直線 AB, すなわち y 軸と接することから, 半径は a である.

また, O_2 が直線 BC: $x - ay - a = 0$ と接するから $\frac{|-ab|}{\sqrt{a^2+1}} = a$

$a > 0, b > 0$ であるから $b = \sqrt{a^2+1}$

よって, O_2 の中心の座標は $(a, \sqrt{a^2+1})$

別解1 終わり

別解2 (5)の最小値は, 式変形を工夫すれば, 相加・相乗平均の不等式で求めることもできる.

$5a^2+1=t$ とおくと, $a > 0$ より $t > 1$ であり $a^2 = \frac{1}{5}(t-1)$

これにより, 接点の y 座標について

$$\begin{aligned} \sqrt{\frac{\left\{\frac{1}{5}(t-1)+1\right\}^3}{t^2}} &= \frac{1}{5\sqrt{5}} \sqrt{\frac{(t+4)^3}{t^2}} = \frac{\sqrt{5}}{25} \sqrt{\left(\frac{t+4}{t^{\frac{2}{3}}}\right)^3} \\ &= \frac{\sqrt{5}}{25} \sqrt{\left(t^{\frac{1}{3}}+4t^{-\frac{2}{3}}\right)^3} = \frac{\sqrt{5}}{25} \sqrt{\left(\frac{1}{2}t^{\frac{1}{3}}+\frac{1}{2}t^{\frac{1}{3}}+4t^{-\frac{2}{3}}\right)^3} \\ &\geq \frac{\sqrt{5}}{25} \sqrt{\left\{3\sqrt{\frac{1}{2}t^{\frac{1}{3}} \cdot \frac{1}{2}t^{\frac{1}{3}} \cdot 4t^{-\frac{2}{3}}}\right\}^3} = \frac{\sqrt{5}}{25} \sqrt{3^3} = \frac{3\sqrt{15}}{25} \end{aligned}$$

等号が成り立つのは $\frac{1}{2}t^{\frac{1}{3}} = 4t^{-\frac{2}{3}} \quad \therefore t=8$

このとき $5a^2+1=8 \quad \therefore a = \frac{\sqrt{35}}{5}$

よって, $a = \frac{\sqrt{35}}{5}$ のとき, 最小値 $\frac{3\sqrt{15}}{25}$ をとる.

別解2 終わり